

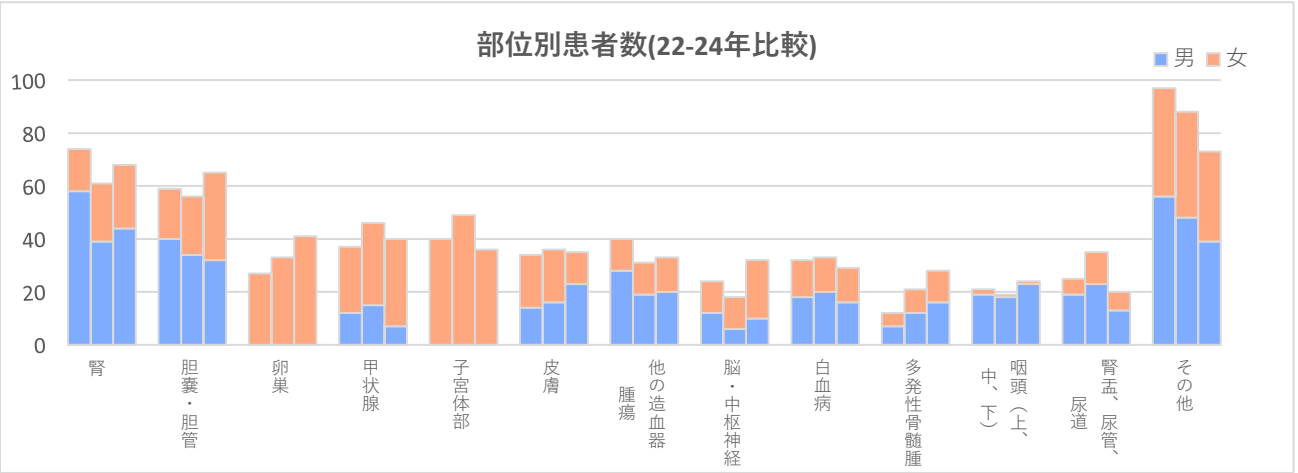
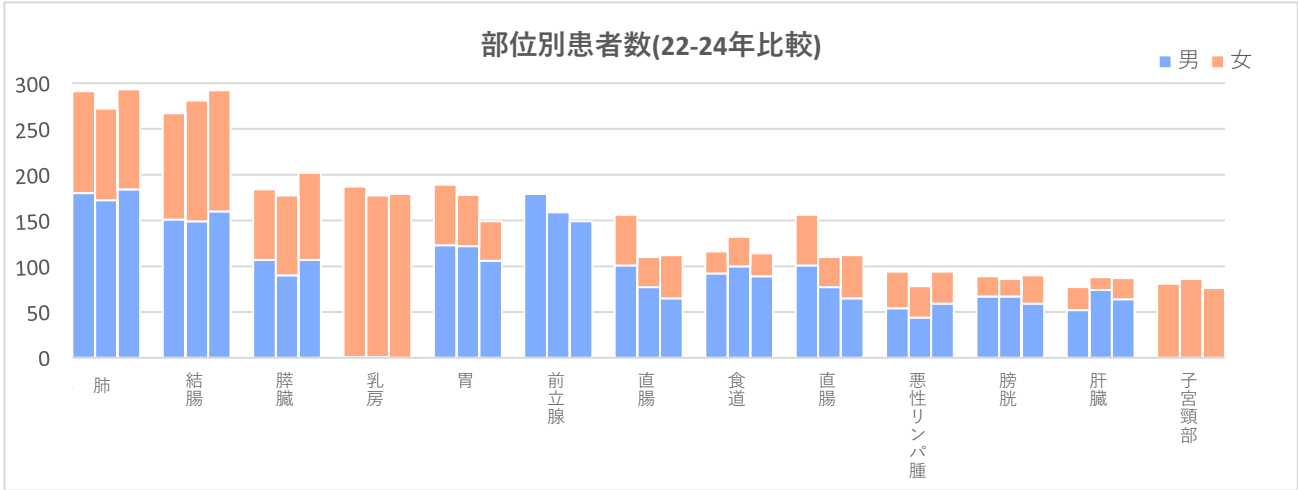
I. 2024年集計 ＜全部位＞

当院でがん診断・治療されたがん患者を対象に、直近3年間の部位別患者数の推移を表とグラフで作成した。総件数は、22年が最も多く、これはCOVID-19感染の流行に伴って他院から当院へのがん患者の受け入れが増加していたことが要因と考えられ、COVID-19流行が落ち着いてきて減少し、23年に2400件を下回ってからは横ばいの数値となっている。

部位別は、「肺」と「結腸」がほぼ同数で最も多く、次いで「膵臓」等の消化器系のがんが多い。「肺」と「結腸」はいずれも300件近い件数となっている。

	肺	結腸	膵	乳房	胃	前立腺	食道	直腸	悪性リンパ腫	膀胱	肝臓	子宮頸部	腎
22年	291	267	184	187	189	179	116	156	94	89	77	81	74
23年	272	281	177	177	178	159	132	110	78	86	88	86	61
24年	293	292	202	179	149	149	114	112	94	90	87	76	68

	胆嚢・胆管	卵巣	甲状腺	子宮体部	皮膚	他の造血器腫瘍	脳・中枢神経	白血病	多発性骨髄腫	咽頭（上、中、下）	腎盂、尿管、尿道	口腔・口唇	その他	総計
22年	59	27	37	40	34	40	24	32	12	21	25	19	78	2,432
23年	56	33	46	49	36	31	18	33	21	19	35	18	70	2,350
24年	65	41	40	36	35	33	32	29	28	24	20	12	61	2,361

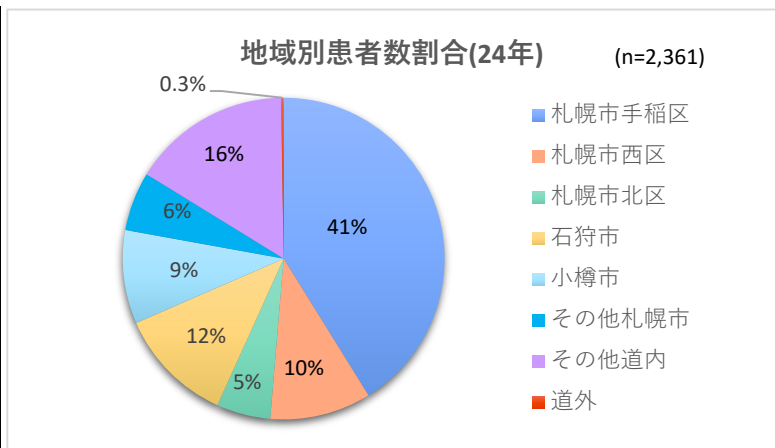


◇地域別患者件数

当院でがん診断・治療されたがん患者を対象に、患者が診断時居住している地域別で、直近3年間の患者件数を表で、24年単年の患者数割合を円グラフで作成した。

札幌市内では「手稲区」「西区」「北区」が、札幌市外では近隣の「石狩市」「小樽市」の患者数が多かった。この傾向は3年間の経年比較でも同様の結果であった。

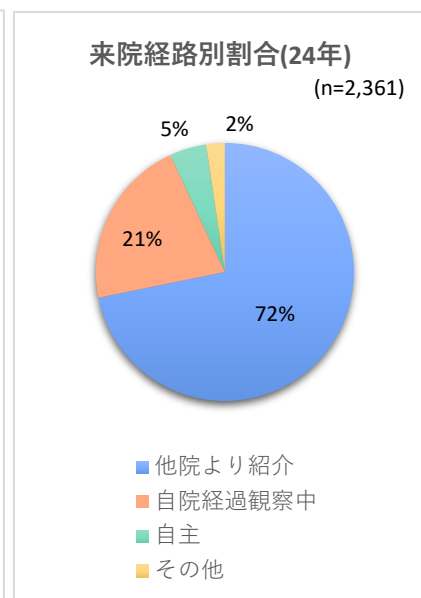
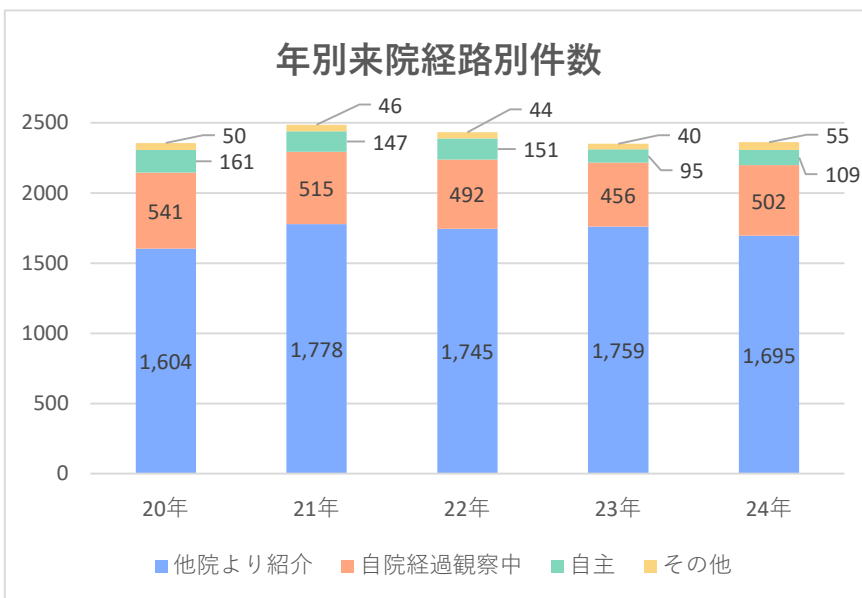
市区町村名	22年	23年	24年
札幌市手稲区	978	958	972
札幌市西区	236	206	240
札幌市北区	197	163	128
札幌市中央区	41	41	42
札幌市東区	30	36	34
札幌市南区	22	14	11
札幌市白石区	19	11	17
札幌市清田区	12	10	22
札幌市豊平区	18	13	7
札幌市厚別区	11	17	7
石狩市	283	267	276
小樽市	213	228	222
その他道内	371	386	377
道外	1	0	6
総計	2,432	2,350	2,361



◇来院経路

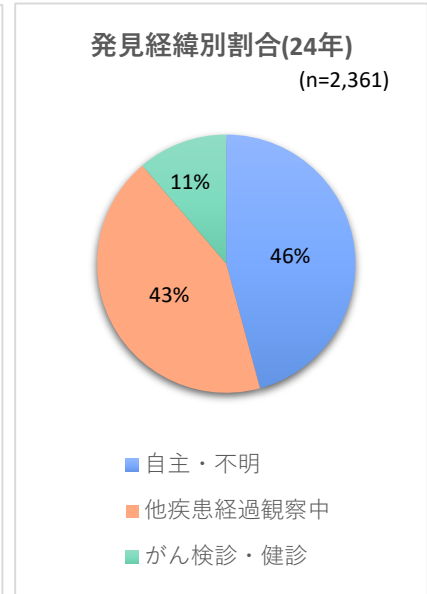
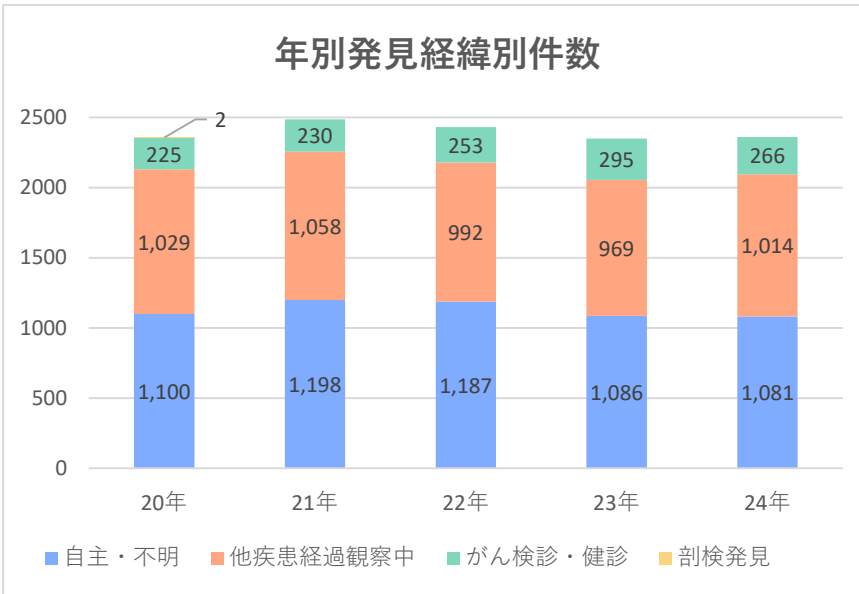
来院経路は、患者がどのような経路を経て自施設を受診したかを把握し、がん診療連携拠点病院(当院)が地域においてどのような機能を担っているのかを他の医療機関との関係から推察するための項目である。

直近5年間の全登録数における来院経路別件数を棒グラフで、24年単年の割合を円グラフで作成した。「他院より紹介」が最も多く、次いで「自院経過観察中」が多かった。この2つの経路で全体の90%以上を占めており、この傾向は5年間の経年比較でも同様の結果であった。



◇発見経緯

発見経緯は、当該腫瘍が診断される発端となった状況を把握するための項目である。直近5年間の全登録数における発見経緯別件数を棒グラフで、24年単年の割合を円グラフで作成した。「自主・不明」が最も多く、次いで「他疾患経過観察中」が多かった。この2つの発見経緯で全体の約90%を占めており、この傾向は5年間の経年比較でも同様の結果であった。



◇症例区分

症例区分は、当該腫瘍の診断および初回治療の一連の過程において、がん診療連携拠点病院(当院)が主にどのような役割を果たしているのかを推察するための項目である。直近5年間の全登録数における症例区分別件数を棒グラフで、24年単年の割合を円グラフで作成した。「自院診断・自院治療開始」が最も多く、次いで「他院診断・自院治療開始」が多かった。この2つの症例区分で全体の80%以上を占めており、この傾向は5年間の経年比較でも同様の結果であった。

